

# 東京電力の企業スポーツ取り組みから想うこと ～スポーツの起源から健康意識へのアプローチ～



大後 茂雄

DAIGO Shigeo

東京電力(株)労務人事部シンボリックスポーツグループ  
長距離・駅伝チーム強化部長

東京電力では、2005年から職場の一体感醸成や地域・社会貢献、企業イメージ向上を目的とした企業スポーツに取り組んでいます。競技種目は、女子サッカーと陸上長距離（駅伝）です。企業スポーツの話をする前に、日本のスポーツ起源について少し触れておきたいと思います。スポーツの起源は大変古く弓術といわれており、江戸時代には余暇を楽しむ手段として馬術、剣術といったスポーツが一般的に行われ、その後学校教育の一環として取り入れられるようになったといわれています。一方、職場スポーツの起源は第一次世界大戦（1914～1918年）後までさかのぼるようです。大戦後の急激な物価上昇や企業の利益拡大を目的とした諸施策を行った結果、労使関係が悪化し労働争議が頻繁に発生し

たそうです。そのため企業は従業員の労働争議の抑制効果を期待し、スポーツを組織内部に取り入れるようになったといわれています。社員と良好な関わりを深めたい企業は手厚い福利厚生施策として、社宅や独身寮を充実させる他、余暇を楽しむ為の厚生施設を作り、同時に社員同士が一緒に取り組める職場スポーツが誕生したと考えられます。このような時代背景を経て、今では社員同士が一緒に取り組める職場スポーツ（労務管理を目的としたスポーツ）以外に、①一体感醸成②職場士気高揚③広告宣伝④地域貢献⑤スポーツ文化醸成、等を目的とした企業スポーツ（筆者は「プロの選手による活動」と定義していますが）活動が新たに加わり変貌を遂げてきました。企業スポーツは内外に対して多くの貢献を



ニューイヤー駅伝2011 東京電力グループ 総合成績21位

果たす中で、社会人オリンピック出場者数は1960年のローマ大会から2008年の北京オリンピックまでの13大会（52年間）の平均は49%と高い数値を示しています。単純に半分近いアスリートが社会人だということです。これは、企業スポーツの高まりが日本の競技レベルを押し上げてきた証だと思います。しかし華やかな話ばかりではなく、企業スポーツは90年代のバブル崩壊以降既に300以上のチームが休廃部に至っており企業スポーツは「衰退した」とか「崩壊した」ともいわれるようになりました。現状のままですと日本のスポーツ文化の灯が消えてしまい強いては企業スポーツの歴史の灯も消えてしまうのではないかと危惧しております。話は変わりますが、統計数理研究所の「健康の満足度調査」で

は40代、50代の方の健康満足度が低下し、不満度が増えるデータが得られています。また別の調査でも40代は健康管理に最も気を遣う年代だといわれています。しかし、「スポーツをやりたいがきっかけがない」、「時間がなかなか取れない」といったお声も伺います。なかなか想いが形にならないのが現実のようです。そこで、シンボリックスポーツグループでは、東京電力グループ所属社員の方々向けに「ランニングサークル」を定期的に開催し、また皆さんで参加できる「サッカー教室」を現役の選手を指導者とし開催もしています。企業スポーツの選手達が社員の方々のスポーツ活動を大いに支援することで、多くの方々が楽しくスポーツに取り組む契機につながってくれたらと思っています。



女子サッカー TEPCO マリーゼ